



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成
～～～ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ～～～

オリンピックでの日本選手団の活躍がテレビ等で連日報道されています。夢や目標に向かって鍛錬を重ね、成果を発揮することはとても素晴らしいことです。本校の児童生徒も将来の夢や希望に向かって挑戦してほしいと思います。日本語学校の学習は、その夢や希望への大切な土台なのです。

子どもたちの作品から 子どもたちは、素直にいろいろなことを表現します！

私がこの本を選んだ理由は、この本のお話をあまりくわしく知らなくて、もっと知りたかったからです。それとこの物語を小学生まで知っておきたかったからです。私はこの本の題名を見て、「どんなお話かな。読んでみたいなあ」と思いました。女王様とアリスと兵士たちがクローケーをしたところが一番心にくりました。なぜなら、そのクローケーがおかしなクローケーだったからです。ボールは生きたハリネズミ、ボールをうつどうぐは、フラミンゴだったから一番心にくりました。もう一つ心にくったところがあります。それは、女王様がアリスをにせウミガメのところへつれていったところですね。女王様がにせウミガメのところに連れていったのがやさしいと思っただけで、女王様がにせウミガメのところに連れていったのがやさしくなつたからびっくりしました。だから、一番心にくりました。登場人物の行動の中で、自分といてるところは、アリスがお茶会するとき、「どうしてせきを一っずれるんだらう。」と思ったときです。

☆読書感想文

四年二組

ふしぎな国のアリス

永峯 葵

☆8月の目標

☆元氣なあいさつをしよう
※授業の始めと終わりのあいさつをしっかりとしよう！

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り 18号
- 2 運動会クラスペアレンツ 依頼文書 (幼稚園/小1・2年)
- 3 個人懇談会お知らせ

・・・主な日程・・・

- ・9月24日 運動会
- ・10月1日 (予備日)



なぜなら、私もどうしてそんなことをするのだろうかとおもったからです。登場人物の行動とちがっているところは、ネコができたのにアリスがおどろかなかったところですね。私は、おどろくと思います。すきなところは、にせウミガメがダンスをするところです。この本は作者、ルイス・キャロルがもうこのために書いた本です。私もお兄ちゃんがいるから、私のお兄ちゃんもふしぎの国のアリスみたいなの、おもしろい本を、私のために書いてくれたらいいな、と思いました。

☆ひまわりのおかをよんで

大西 麗央

この本は、東日本大震災のお話です。このしんさいでなくなつた大川小学校のせいのお母さんの気もちがかかれています。ぼくは、しんさいの時、五才だったので、すぐくしよげきを受けたのでこの本をえらびました。ぼくは、この本を読んで印象にくったことがふたつあります。一つは、一人のお母さんがひまわりを植えようと言ったところですね。理由は、ひまわりのように明るく生きようという気もちが見えるからです。ぼくから見るとそのお母さんは、くじけずに上を向いているので強いと思います。二つ目は、まさあき君の兄弟がそろってなくなつたという場面です。理由は、ぼくにも兄弟がいるのでなくなると兄弟がわかるからすぐくつらうと思ひます。だから、ぼくも、弟と家族を大切にしようと思ひました。最後に、この本を読んでぼくは、つらくてさみしい思いもするけれど、くじけずにがんばるお母さんは、強いなと思ひました。

・・・奇跡の一本松・・・



☆かあちゃん取扱説明書を読んで

一木のあ

わたしが、この本をえらんできっかけは、友達がおススメしてくれたからです。題名は、よくわかりませんでしたが、しかし、ひょうしの絵にきょうみをもったので、読むことにしました。

この本の中で、わたしが、一番心にこったトリセツのこう目は、「早くしなさいといわれぬ方法」です。わたしは、よくお母さんに、「早くしなさい。」と言われます。そんなとき、わたしも、主人公のてつやと同じでやるべきことを、親に聞こえるように口にします。そうすると、親は、「早くしなさい。」と言わなくなり、ます。この経験からてつやの気持ちがよく分かります。

さらに、もう一つてつやの気持ちがあるところがあります。それは、「かあちゃんおそろべし。」というところ。わたしのおかあさんもおそろしいです。ふ段はやさしいです。だけど、わたしや妹が悪いことをしている時、絶対にバレています。お母さんにうそは、通用しません。お母さんは、まさに、「おそろべし」です。

この本を読みわたしは、やっぱりお母さんには、勝てないと思いました。そして、あつかいがむずかしいと思いましたが、しかし、本の中にかいてあった

トリセツを、実さいに、使っています。みたいです。



☆感想文 三年一組

「まじょ子と7にんのちっちゃおばけ」

石川 なつき

ちっちゃおばけは、とてもかわいくて、一番カワイイと思ったのは、ちびちっちゃです。ちっちゃおばけの家には子ども王子さまがお母さんにくるされそうになりながら逃げてきていました。その王子さまがすぐくつかっこいいとおもいました。ちっちゃおばけのごはんは、ほこりのサンドイッチ、おやつは白カビチョコボールなのでとてもまずそうだと思います。でも、一回だけでもちっちゃおばけたちに会いたいです。



「ねむりのはなし」 相沢 ゆう心

ぼくは、ねむりのはなし」という本を読んでへビにはまぶたがなくて、目をあけたままねむることをはじめて知ってびっくりしました。ずつとねむらないで起きていたらどうなるかとじつげんした人たちがいました。その人たちは、昼も夜もずつとおきていました。そのうちにとてもねむくなつて、本を読むこともテレビを見ることもゲームをしてもしっばいばかりになりました。そして、さいごには、立っていることができなくなり、すわつたとたんみんなねむってしまった。

このじつげんで、ねむらないでいるとだれでも体やのうの調子がわるくなり、元気にすごすには、ねむりが大切だということが分かりました。ぼくは、ねむらないでずつと遊んでいたいと思っていたけど、ねむらないと元気がいっばいねむりたいと思います。



「オズの虹の国」 アテイソン

ある日、チップが大きな木の人形をつくりました。わるいモソビがいて、おどろかしてやるう」と言って、ドアのそばにおいてモソビがきたとき、ゴツンという音がしてチップがわらいました。わたしがおもったことは、モソビがゴツンとなったときわたしもわらいました。私の一ばんすきなところは、モソビがゴツンとなったときです。



「わすれられないおくりもの」

松本 あい里

わたしは、わすれられない おくりもの」と言う本を読みました。みんなからたよりにされていて、年をとったアナグマがしんでしまひ、友だちをうしなつたみんなが、元気だつたころのアナグマの話やアナグマから教えてもらったこと、たすけてもらった話などをみんな話してかなしみをのりこえていくお話でした。わたしは、アナグマは、みんなにやさしくて、ものしりで、すかれていたと思ひました。

わたしは、わすれられない おくりもの」というのは、わすれられない アナグマの思い出だと思ひました。



